

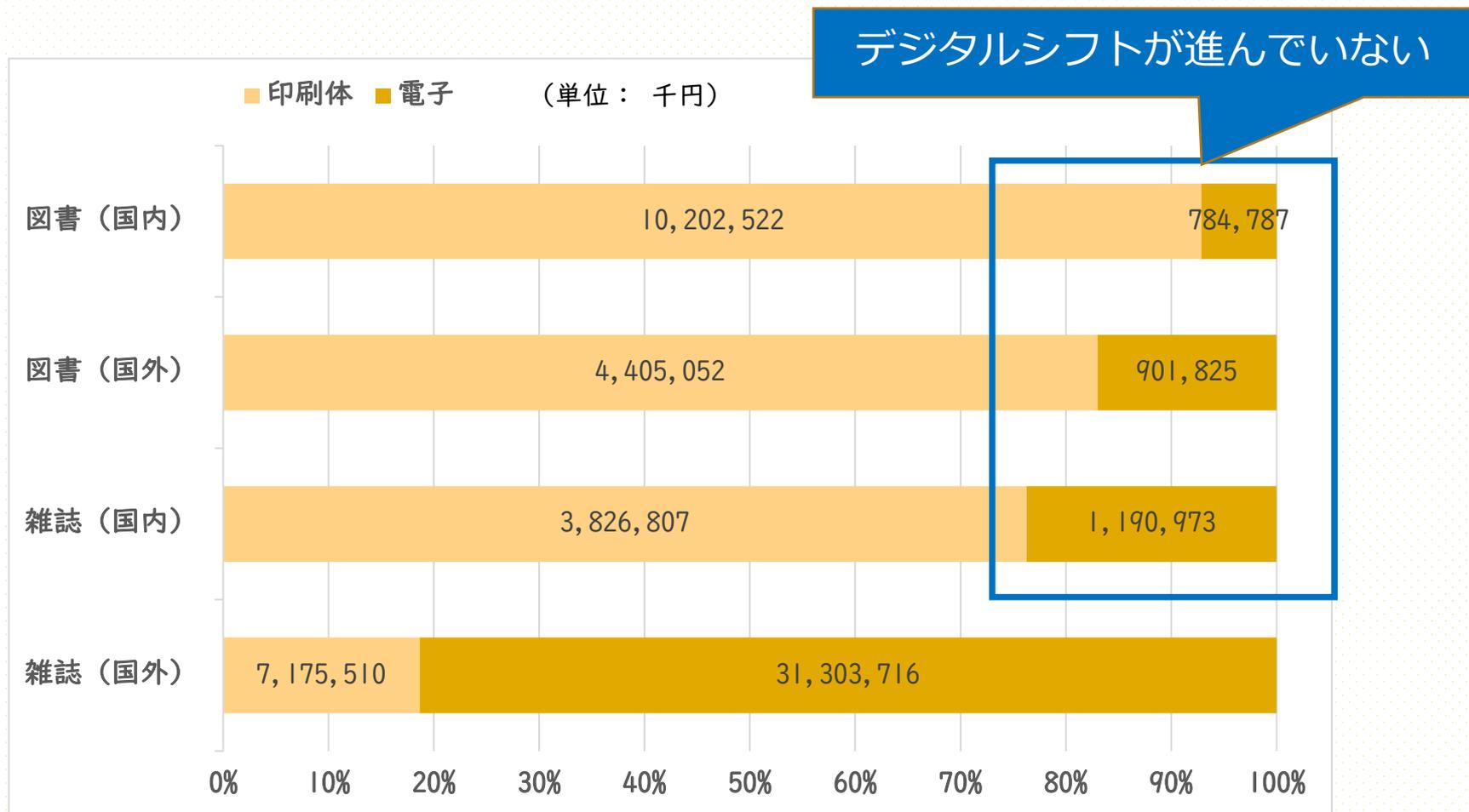
# 「これからの学術情報システム構築 検討委員会」が実現を目指すこと (案)

システムワークフロー検討作業部会

# 目次

- 大学図書館等における学術情報資源整備の現状
- 教育・研究DXへの寄与
  - システム整備による学術情報資源のデジタルシフト（第一段階）
  - デジタルシフトを前提とした新たな教育・研究環境の構築（第二段階）
- 学術情報資源のデジタルシフトに向けた活動
  - ① 国内電子書籍の書誌情報共有
  - ② 電子リソースデータ共有
  - ③ 国内デジタルアーカイブの流通促進
  - ④ メタデータ流通の高度化
  - ⑤ 統合的発見環境の整備
  - ⑥ 図書館システム整備
- デジタルシフトを前提とした新たな教育・研究環境の構築

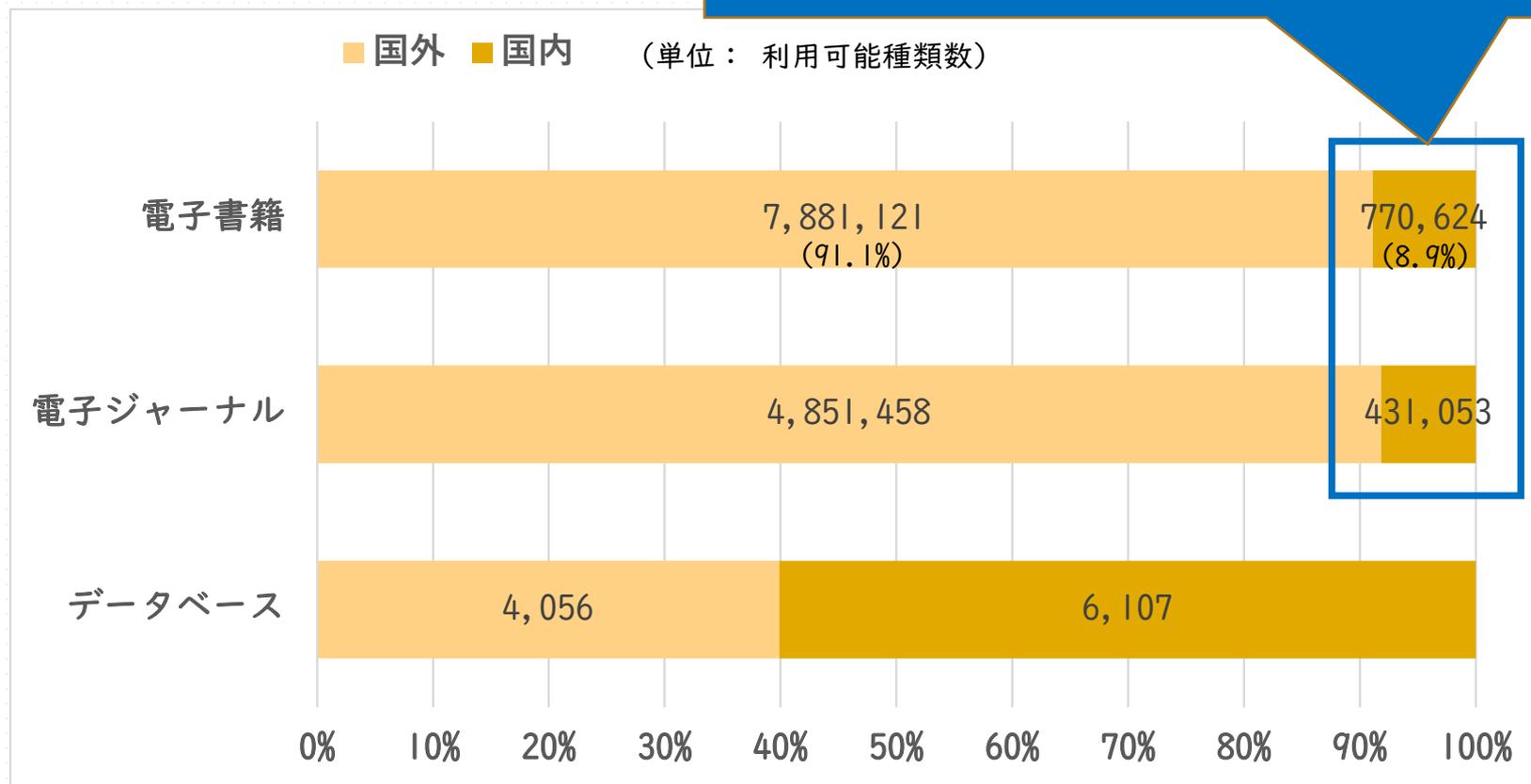
# 大学図書館等における学術情報資源の現状： 印刷体／電子リソースの割合（国内の大学図書館資料費）



学術情報基盤実態調査（令和2年度 大学図書館編）より

# 大学図書館等における学術情報資源の現状： 電子リソースの国内／国外割合（国内の大学図書館の提供種類数）

国外に比べ、国内の利用可能種類数が少ない



学術情報基盤実態調査（令和2年度 大学図書館編）より

# 大学図書館等における学術情報資源の現状： デジタルアーカイブ整備状況（国内の大学図書館）

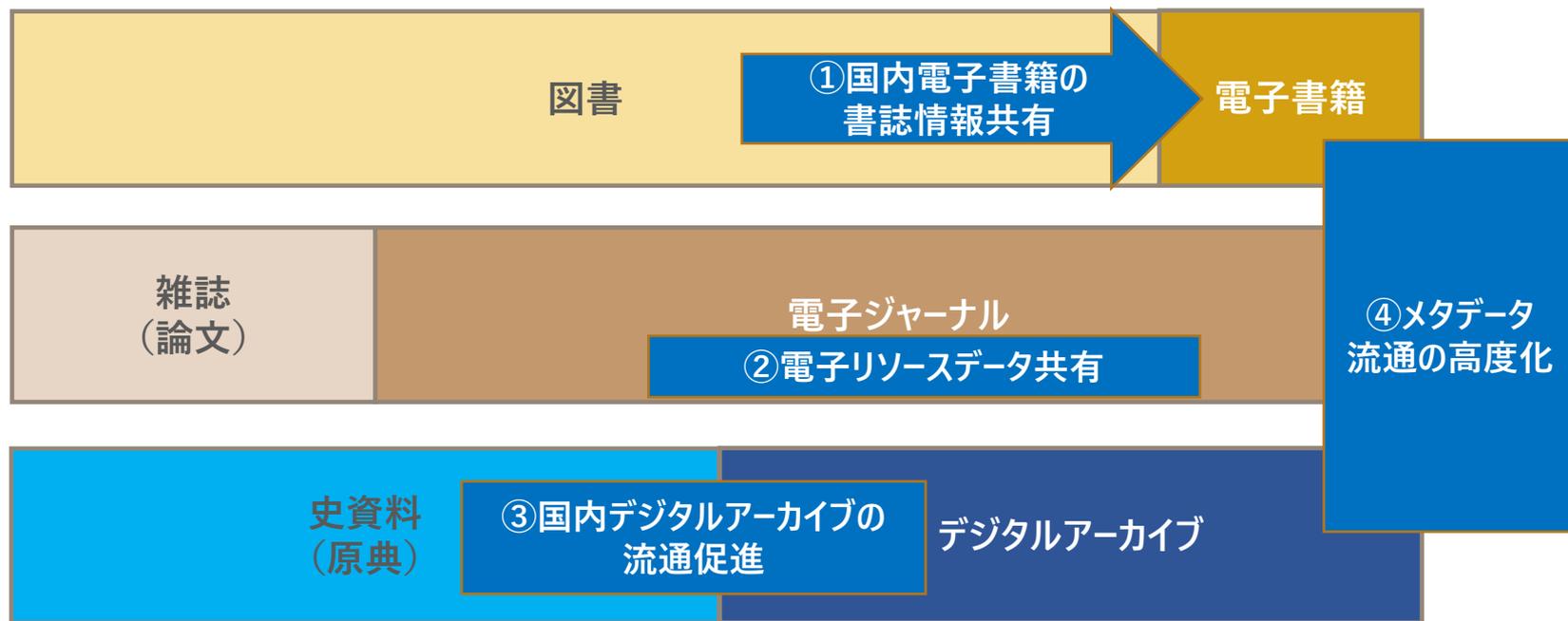
全国215機関がデジタル化を実施  
→ 統合的に発見する環境がない

	デジタル化を 実施する機関	機関数	割合
規模A（8学部以上）	45	65	69.2%
規模B（5～7学部）	46	118	39.0%
規模C（2～4学部）	69	327	21.1%
規模D（単科大学）	55	291	18.9%
全体	215	801	26.8%

学術情報基盤実態調査（令和2年度 大学図書館編）より

# システム整備による学術情報資源のデジタルシフト

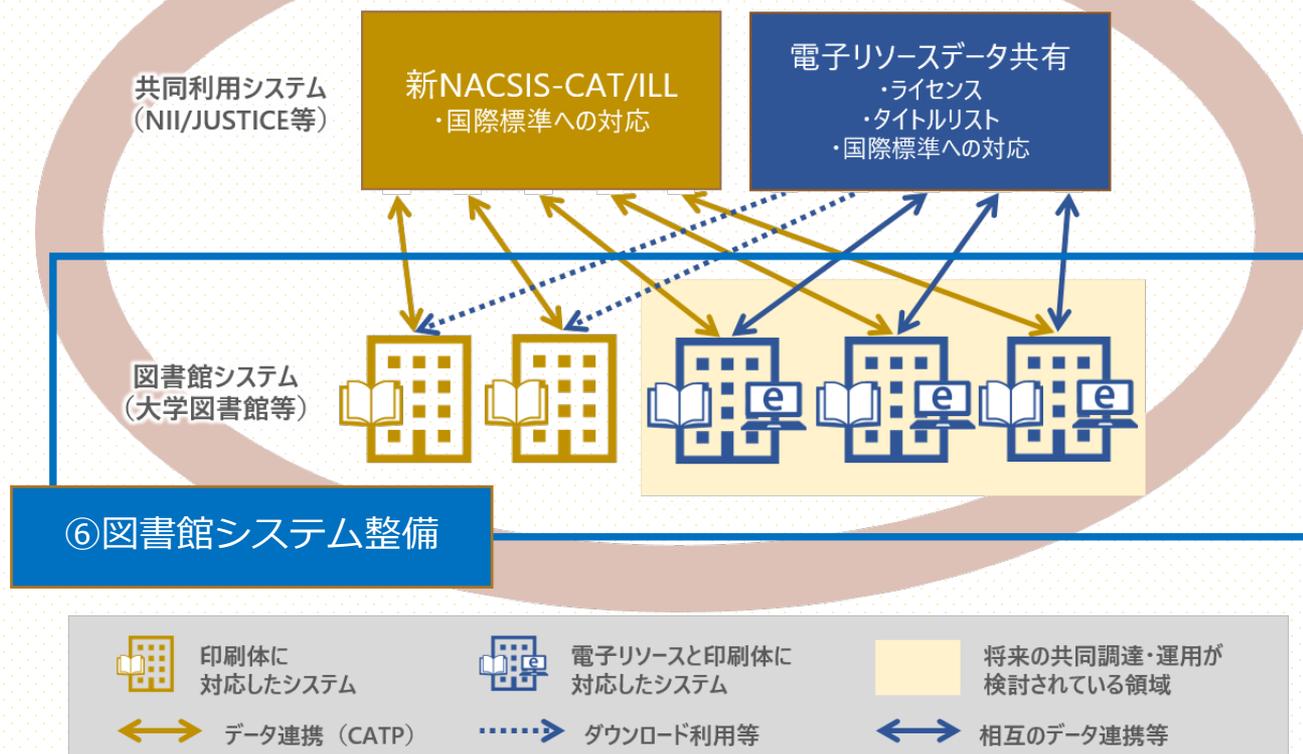
## ⑤ 統合的発見環境の整備



➡ 学術情報資源のデジタルシフト促進

# システム整備による学術情報資源のデジタルシフト（続き）

## 大学図書館システム・ネットワーク



➡ ①～⑤に対応した図書館システムを整備し、デジタルシフトを牽引

# デジタルシフトを前提とした新たな教育・研究環境の構築

## 図書館の検索機能（従来）

辞書・事典  
(データベース)

図書  
(電子書籍)

雑誌  
(電子ジャーナル)

# デジタルシフトを前提とした新たな教育・研究環境の構築

- 多様な学術コンテンツを包含
  - マイクロコンテンツ（章・図表等）への対応
  - 識別子による相互リンク
- ⇒ 教育・研究活動の深化

実現を目指す統合的発見環境

辞書・  
事典  
(データ  
ベース)

項目（見出し）

本文  
(テキスト)

図表

図書  
(電子書籍)

章（テキスト）

目次

図表

文献  
リスト

索引

雑誌  
(電子ジャーナル)

論文

本文（テキスト）

図表

文献  
リスト

研究データ

調査

観測

文書

...

実験

集計

史料

教材  
(電子教材)

普遍性

鮮度

# 学術情報資源のデジタルシフトに向けた活動

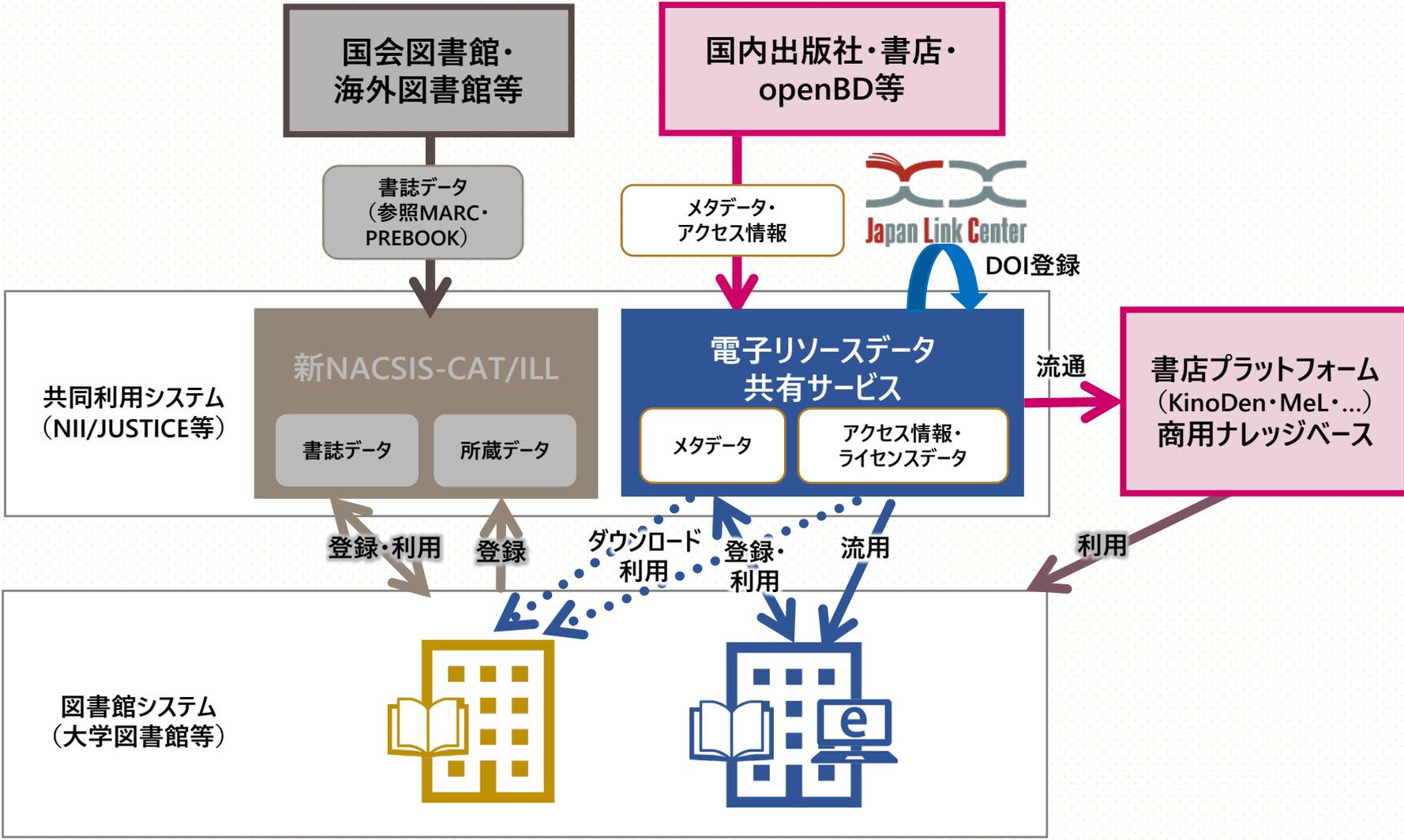
- ① 国内電子書籍の書誌情報共有
- ② 電子リソースデータ共有
- ③ 国内デジタルアーカイブの流通促進
- ④ メタデータ流通の高度化
- ⑤ 統合的発見環境の整備
- ⑥ 図書館システム整備

# ① 国内電子ブックの書誌情報共有

- OpenBD, メディアドウ, 各書店 (KinoDen / MeL) などのメタデータ共有機能を構築
- マイクロコンテンツへの対応 (有機的につなげる)

- 大学図書館での人的リソースの不足などの状況を鑑みると, 「電子」の学術情報の集約や共有に労力を費やす余裕はない
- 国内出版社や取次等の連携も十分ではなく, 日本の学術書の電子化が停滞  
↓
- 「共同利用システム」を学術電子ブックのメタデータを集約するプラットフォームとしても機能させることで, 利活用の促進とともに, 国内出版社による電子化を加速
- 流通系メタデータやプラットフォームの書誌データの特徴から抄録や目次データを含む, 豊かなメタデータを検索用の書誌データ等として利用可能にする
- 出版社から流通開始と同時期にメタデータを共有することで, 図書館の発注・受入業務の軽減につなげる

# ① 国内電子ブックの書誌情報共有（図）

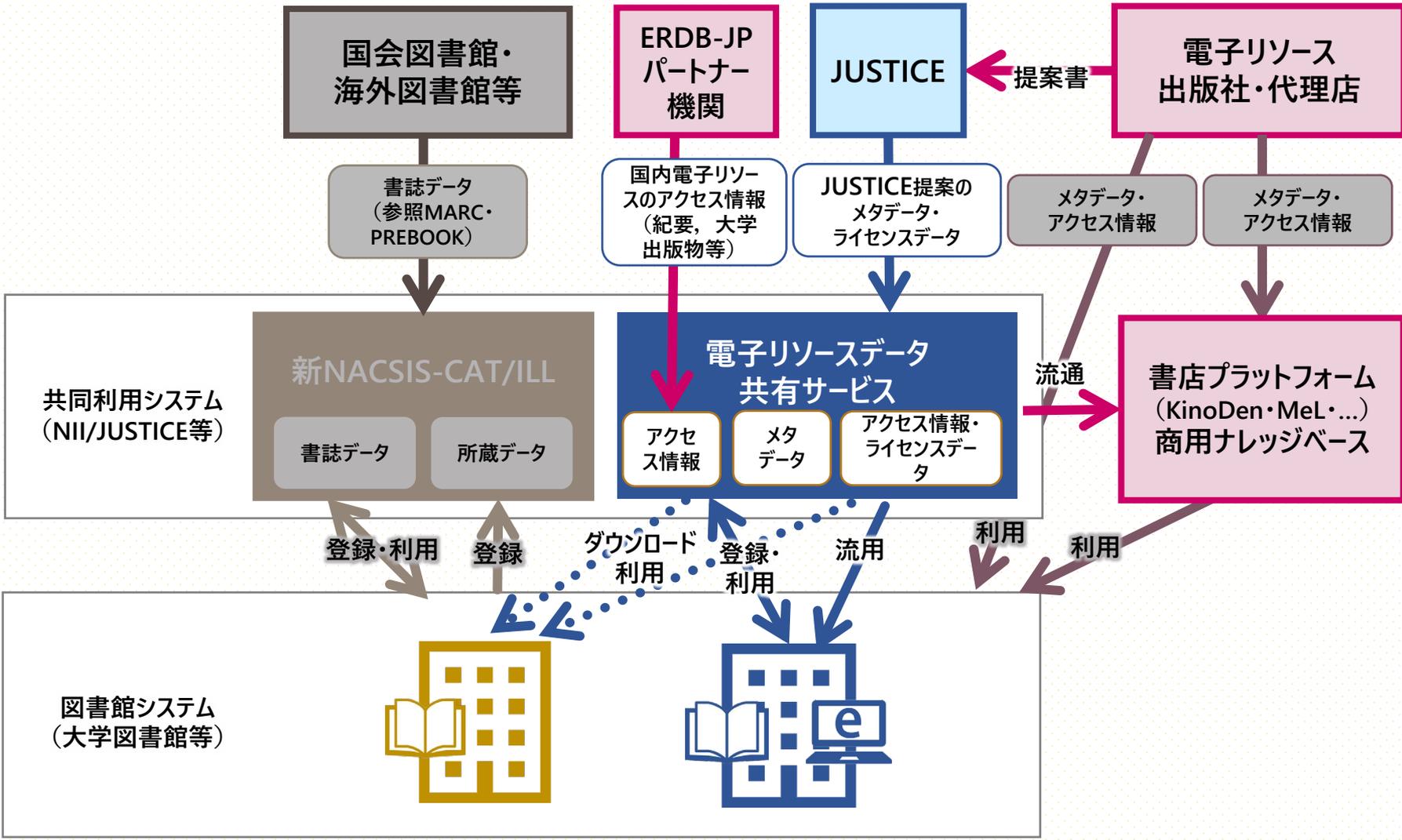


## ② 電子リソースデータ共有

- ERDB-JP
  - 国内電子リソース（電子ジャーナル，電子ブック）のタイトルリスト
- JUSTICE提案書情報の活用
  - タイトルリスト： メンテナンス手順，JUSTICE独自パッケージのタイトルリスト，タイトルリストの差分
  - ライセンス： 利用者提示用，管理用

- 大学図書館において電子リソースデータは著しく増加し，多額の予算を投じてはいるものの，タイトルリストやライセンスの状況を効率的に把握することが，大学図書館における人的リソースなどの点で，難しいことから資源としての利活用が十分に行われているとは言い難い
- ERDB-JPのタイトルリストは，国内のオープンアクセス化された電子ジャーナル，電子ブックを集約的に把握する仕組みとして重要であり，これらの情報を発見する環境を提供するうえで，さまざまな側面から発展させていくことが必要
- JUSTICE提案書情報でもたらされるさまざまな情報をシステムを通じて，データとして効率に共有できる仕組みを構築することで，各機関において重複してなされる業務を削減し，高度化する必要

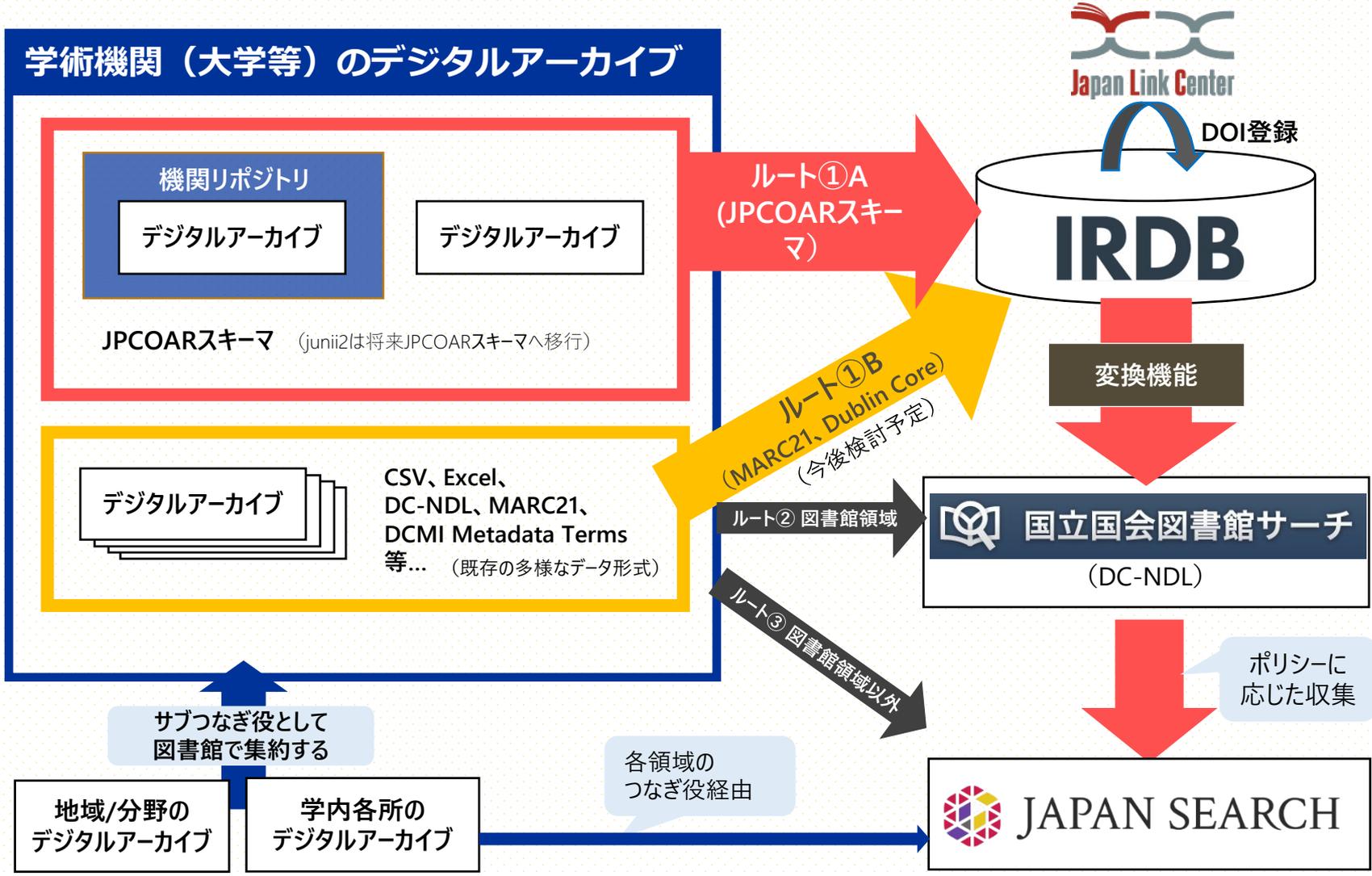
## ② 電子リソースデータ共有 (図)



### ③ 国内デジタルアーカイブの流通促進

- 流通経路，データ交換形式の整理
- 関係組織（NDL，JPCOAR等）との連携によるメタデータガイドライン作成

# ③ 学術機関のデジタルアーカイブの効率的なメタデータ流通経路図



#### ④ メタデータ流通の高度化

- 資料種別（図書/雑誌/デジタル）や提供形式（印刷体/電子）を問わず統合的に発見可能にするための対応
  - NCR2018でMARC21を用いてIFLA Library Reference Modelを実現する
- 国際的なデータ流通への対応
  - CATP→MARC21 . . .
  - バーチャル国際典拠ファイル (VIAF)

## ⑤ 統合的発見環境の整備

- CiNii Booksの後継となり得る統合的発見環境（紙，電子，デジタル）の提案
  - 検索対象は、「紙」の書誌レコードがある資料のみとなっているが、利用者の視点から考えても「紙」の目録であるNACSIS-CATと並立する、必要かつ十分なメタデータを集約した「電子」や「デジタル」の発見環境へのニーズに応える
- 次世代ILL（紙，電子）の提案
  - マイクロコンテンツの検索結果からILLへシームレスにつながる仕組みを作ることで、より正確なメタデータを取り込んでの申請を可能とする
  - （図書館と出版社が望む）ライセンスデータを明示し、その内容をシステム側に反映させることで、ILLができるもの、できないものの判別を可能とする
    - 海外と同様に利用者が所属する図書館の手を介さないUnmediated形式のILLを実現
    - 出版社と協力し、ILLと併せてコンテンツそのものの販売やSTL（Short Term Loan）などを提供し、文献入手の多元化を進める
- シェアードプリント
  - 引き続き存在するものの共有化を促進できるもの
  - デジタルシフトの牽引
- 図書館員のための分析ツールの提供
  - コンテンツや利用状況のフィードバックによって図書館の運営に役に立つ

※「図」は今後作成

## ⑥ 図書館システム整備

- 紙，電子を区別しないシステム業務の確立による，業務の軽量化・合理化，及びサービス高度化（Ex Libris Almaを用いた検討）
- 共同利用システム（新NACSIS-CAT/ILL，電子リソースデータ共有サービス）と連携した業務フローの確立

※「図」は今後作成